

# 全員参加で活力あふれる志都の里

(有志の里)の志都の里は、志津見ダム建設に伴う生活再建対策として、志津見地区に設置された施設などを管理するため、志津見地区の全戸が出資した会社です。「全員参加」「自給自足」「笑顔」にこだわり、うぐいす茶屋・クラインガルテン・ヤマメの養殖を運営するほか、大豆・ソバ・水稲栽培など10事業ほどを行っています。昨年役員交代が行われ、1ターナー者が入社したことで、運営拡充や新分野への取り組みが可能になりました。「持続できる地域づくり」を合言葉に、産業基盤づくりを力を入れる地域運営会社です。



社長の空岡 健さん

空暮らしがしたいという定年退職男性が多い。昨年建設された建物には40代や50代の方もいる。団塊世代からも問い合わせがあるが、雪の量がネックだ。

**問** うぐいす茶屋とクラインガルテンの近況は

**答** うぐいす茶屋では、昨年4月から「手打ちそば」を始めた。通りすがりの人が、本物の手打ちそばを食べて口コミで広がっており、客層が変わってきた。

広島や出雲からのお客さんが増えてきたように思う。基礎を築いてくれたのは女性グループだが、今も手伝ってくれている。手作り豆腐の人氣は根強いが、作る人が限られており量は難しいので、地道にやるしかないと思っている。クラインガルテンの利用者は、畑仕事をしながら田

**問** 志都の里の将来展望について

**答** 高岡君が手打ちそばを始めてから、うぐいす茶屋の運営見込みがたつようになった。少ないけれど賃金が支払えるようになってきている。1ターナー者である高岡君がいなければ今の展開はなかったと思う。

今年からトマトのト口箱栽培を始めるが、これも志津見に住んでいる1ターナー者の中川君が入社してくれたからやれるようになったと思う。



高岡 晃さん



中川 茂芳さん

1ターナーの高岡君や中川君がいたので、手打ちそばが始まり、トマト栽培を始める。少しずつ新しい産業への取り組みが進んでいる。

**問** 1ターナー青年定着に秘訣があるのか

**答** 志津見地区の先輩たちが、1ターナー者を受け入れる住みよい風土を築いてくれたことが一番だと思う。

また、クラインガルテンがあることで、田植えや稲刈りや秋祭りなどの交流事業がたくさんある。そのため、1ターナー者と一緒にお酒を飲む機会が多い。難しい話をするよりも一晩飲めば仲良くなれる。

**問** 志津見地区を誇りに思うことは

**答** 世代交代がスムーズに行われたことで、他地区から羨ましがられるが、この地区は60代70代の人たちが若いもんを育てる力があると思う。

先輩方が主体から引いても手伝ってくれるので、安心して挑戦できる環境にある。自分たちで考えチャレンジすることで、やりがい生まれることが誇りだ。

これまで我々は先輩についていけば良かったが、今は私たちが頑張らないといけない。

**問** 持続できる地域づくりへの抱負を

**答** ダム建設のおかげでさまざまな施設を作ってもらったが、これに甘えず、自力で飯が食え永続できる地域にするためには、基盤となる産業が必要だ。

新しい分野へ取り組み、若い人がこの地域で食えるようにしなければならぬ。この地区で盛んだった畜産なども検討していきたい。

## 表紙の写真



「牛の歩みも千里」という、怠ることなく努力を続ければ成果は上がるという諺がありますが、Gyu牛会の若者たちを中心とした担当のJAや役場職員たちも、日を追うごとに体が理想に近づいている全共候補牛を大切に育てています。中山間地域研究センターで共同飼育されている候補牛は、環境の良さが手伝ってか少々太り気味でしたが最近ピシッと締まってきています。さあ7月の選抜会で島根県代表の栄誉を得て、10月の長崎県での全国和牛能力共進会優勝に向かってモウ一步前進!!

## 編集後記

消費税率引き上げを柱とする社会保障・税一体改革関連法案が、民主、自民、公明3党などの賛成多数で衆院本会議において可決しました。

3年前、民主党の政権公約に消費税の増税はなく、政権を獲得してからは約束を破り、約束していないことを強行する政権与党の責任と自覚を疑いなくなりす。

そんな中、わが町は、来年度の尾道松江線の開通を控え、早急に対策を立てないと陸の孤島になります。

6月議会では6人の議員が一般質問しました。役場新庁舎建設や広島へのアンテナショップ開設、倒産したサプロ島根問題など課題山積。議会の存在意義が問われます。

議員任期も残すところ1年ほどとなりました。議会では、議長から諮問されている議員定数問題や議会活性化についての判断をまとめるため、活発な議論を展開しています。

我々は、予算や条例などに関する議決権行使や町政チェックとともに、3年前の選挙における各自の公約実現にむけて行動し、有権者の期待に応えなければなりません。

議会広報編集委員会

安部 誠也